

令和6年度 東京都立杉並高等学校 学校経営計画

校長 高橋 聡

＜建学の精神＞

- 「自主」：自分で考え正しく判断して行う
- 「素直」：謙虚な心をもって知識を身に付ける
- 「気魄」：強い意志で物事をなしとげる

＜スクールミッション＞

「自主、素直、気魄」を建学の精神とし、国際理解教育や体系的なキャリア教育、自主的、主体的な特別活動を通じて、豊かな国際感覚を備え、より高い目標に向かって挑戦し、多様性を尊重して共生社会の中で積極的に社会的役割を果たす人材を育成する。

＜グラデュエーション・ポリシー＞

- (1) 国際社会に生きる日本人として、幅広い教養や多様な文化への理解、豊かな感性と知識を身に付けている。
- (2) 思考力・判断力・表現力を駆使して、未知なるものや目の前の課題に立ち向かい、解決しようとする態度を備えている。
- (3) 様々なことに主体的・能動的に取り組み、他者と協働して社会に貢献しようとする一段高い志をもっている。

＜カリキュラム・ポリシー＞

- (1) 必修科目・必修選択科目により、基本的な知識・技能を身に付け、学びに向かう力を育てる。
- (2) 学校設定科目・自由選択科目により、応用力や思考力・判断力・表現力を高める。
- (3) 各教科において言語活動を活性化し、コミュニケーション能力と表現力の向上を図る。
- (4) 総合的な探究の時間を活用し、未知なるものへの探求心や課題解決のための行動力を育成する。

＜アドミッション・ポリシー＞

- (1) 各教科の学習に意欲的に取り組み、総合的な探究の時間にも積極的に参加する姿勢が備わっている。
- (2) 学校行事や生徒会活動に主体的・能動的に取り組み、貢献した経験を有している。
- (3) 部活動を3年間継続してやり遂げ、入学後も学習と両立しながら、継続して活動する意欲をもっている。

I 目指す学校

○豊かな国際感覚を備えたグローバル人材を育成する学校

国際社会に生きる一員としての自覚と、グローバル化の進展の中で、柔軟な思考に基づいて、たくましく生き抜く人間を育成する。

○より高い目標に向かってチャレンジする学校

心身ともに健康な知力、体力を身に付け、未知なることを探究し新たな創造につながる力を備えて、自らの可能性を伸ばし、高い目標を目指して挑戦する人間を育てる。

○社会に期待される文武両道の名門校

学習や特別活動等、調和の取れた活動で得た経験を活かし、多様性を尊重し、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間を育てる。

II 中期的目標と方策

「水滴石穿」目標を高くもち、できることから少しずつ努力を継続し、進路希望を実現させる

<目 標>

- 1 備えるべき真の学力を育て、社会の有為な形成者を育成する。
- 2 高い志を育み、生徒の自己実現を図る。
- 3 部活動や学校行事等特別活動の活性化を図る。
- 4 規範意識を身に付けて基本的生活習慣を確立する。
- 5 各種指定校の取り組みから特色ある学校づくりを進める。
- 6 組織的な広報活動を一層充実させる。
- 7 国際理解教育を通じて、豊かな国際感覚を備えたグローバルな人材を育成する。

<方 策>

- 1 教科指導力向上及び授業改善を継続して行うとともに、これからの育成すべき生徒像を明確にした教育課程編成と新たな大学入試制度を見据えた教科指導内容の充実を図る。
- 2 3年間を見据えたキャリア教育全体計画を推進し、継続したデータ分析及び定点観測によるきめ細かな進路指導を実施し、生徒の第一志望の進路実現を図る。
- 3 部活動や行事等の特別活動において、友人、上級生、下級生との協調から連帯感や学校への帰属意識を醸成するとともに、努力することの大切さや達成感を体感させる。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として備えるべき常識やマナー、規範意識を身に付けさせるとともに、教育相談機能を充実させ、きめの細かい生徒理解を進める。
- 5 都教育委員会からの各種指定校の取り組みを有機的、横断的に組み合わせることで学校の特色化を進めて、生徒、保護者からの信頼を高める。
- 6 保護者・地域及び中学校等に対して、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
- 7 海外修学旅行、海外語学研修旅行、次世代リーダー育成道場への生徒派遣、留学生の受け入れ等をとおして、豊かな国際感覚を備えたグローバルな人材を育成する。

III 今年度の取組目標と方策

1 学習指導

<目 標>

「英語教育研究推進校」の指定を受けた英語科はもちろん、あらゆる教員の教科指導力を向上さ

せるとともに、生徒の自学自習の習慣を確立させる。現在の3年生が現行学習指導要領及び観点別評価の完成年度である。その成果を検討・発展させ、これからの育成すべき生徒像を明確にして教育課程の適正な実施に努める。

＜方 策＞

- (1) 教科主任会議を定期的に実施し、模試分析会等で指摘された教科指導の課題を共有し、解決に向けて教科会で検討し、再度教科主任会で成果検証を行う PDCA サイクルを活用する。
- (2) 授業時間確保に努めるとともに、生徒が落ち着いて学習に取り組むだけでなく、ICT の活用やアクティブラーニングを取り入れた授業を実践し、活気のある授業を実践することによって、意欲的に自宅での学習にも取り組むよう指導を行う。
- (3) 国語、数学、英語の3教科での少人数指導や、習熟度別少人数編成授業等の充実から生徒の学力の定着・向上させる。
- (4) キャリア教育全体計画を踏まえて、学習指導要領の「総合的な探究の時間」を充実させ、大学入試改革に対応するため、総合型選抜制度に探究する力を育成する指導を展開する。
- (5) 生徒の探究的な態度を育成するとともに、すべての教科で言語活動を重視し、読解力を養い、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。
- (6) 国際理解教育の推進のために、英検や GTEC 等英語の技能検定等の取り組みを充実させるだけでなく、JET-ALT(英語指導補助員)を授業で活用し、レシテーションコンテスト、スピーチコンテストで生徒の動機付けを高めながら、「英語教育研究推進校」の取組を進め、生徒の英語学力を向上させる。
- (7) 生徒・教員に働きかけを行い、日常の始業前及び放課後の補習、週末課題の提出、長期休業日中の講習を計画的、組織的に実施する。
- (8) ルーブリックを活用した管理職の授業観察を積極的に実施し、教員にフィードバックを行い、生徒の学力向上と授業満足度を高める授業改善を推進する。
- (9) 教員相互の授業見学や、授業改善、新教育課程編成のための校内研修を充実させる。
- (10) 予備校等における教員研修に、10 名以上の教員を対面やオンラインで指導力向上のための研修に参加させ、各教科で成果を共有させる。
- (11) 英語4技能の能力の向上を目指し、レシテーションコンテスト、スピーチコンテストを継続・発展させるとともに、オンライン学習支援アプリ（2年スタディサプリ、1年スタサプイングリッシュ）を導入し、週末課題、単語テスト、英語検定の指導に活用する。
- (12) 教員の授業力の向上を目指して、各教科最低1校他校の授業参観を実施し、教科会で情報共有し、教科主任会議で報告し、科として授業改善の方針を策定する。

2 進路指導

＜目 標＞

3年生が予備校や塾へ通っている率が50%以上と進学指導、受験指導が塾・予備校への依存している状態がある中、塾や予備校に頼らない進学指導の実践を目指す。そのため、3年間のキャリア教育・進路指導のさらなる充実が求められる。計画的に組織的な進路指導を充実させるとともに、高い志をもった生徒の進路実現を目指し、社会に有為な社会人を育成する。

＜方 策＞

- (1) 進路指導部主導で、第一志望の「行きたい学校」にチャレンジする組織的な指導体制を確立する。
- (2) 個別面談、三者面談を各学年必ず1回実施（3年生は一般受験生徒は2回）することとし、保護者の意向も聞き取りながら。生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導を行う。
- (3) 模擬試験を年間計画に基づいて実施し、データ検証を基に分析会等を実施し、教科指導の改善、指導に反映させるため、教科主任会議を定期的に実施し、模試分析会等で指摘された教

科指導の課題を共有し、解決に向けて教科会で検討し、再度教科主任会で成果検証を行うPDCAサイクルを活用する。

- (4) 新卒業生による合格体験座談会や同窓会の協力を得たキャリアガイダンス講座の他、大学訪問等を実施し、希望進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
- (5) 進路指導部主導により、教科ごとに、計画的、組織的な長期休業日中に本校にふさわしい内容・期間の講習を実施する。夏季休業中の講習については5日間を1タームとして開講する。全学年での講座数及び生徒参加人数を調査し、報告する。
- (6) 自習室及び進路指導室を生徒が活用するのに適切な環境に改善する。
- (7) 3年間を見据えたキャリア教育、主権者教育、消費者教育を視野に入れた全体計画をもとに、公民としての権利と義務を自覚させ、18歳成年制度を視野に入れた指導を行う。
- (8) 今年度より、1年生でスプリングキャンプ（来年度以降、新入生 HR 合宿再開予定）、2年生でオータムキャンプを実施し。学習方法、進路の決定方法、受験に必要な情報を伝達し、受験への心構えと動機づけを醸成する。
- (9) 「総合的な探究の時間」を活用した課題論文作成指導と小論文対策を目的とした、「総合的な探究の時間」の計画的で組織的な改革に関する委員会を設置し、進路部を中心に課題論文の作成に向けて取り組む。

3 生活指導

<目 標>

健全な市民を育成するために、18歳成年制度を視野に入れて、組織的な指導体制で、責任ある社会人としての生徒の規範意識を涵養する。

<方 策>

- (1) 学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともにスマートフォン及びSNSを適切に利用する生活習慣と態度を育成する。
- (2) 身に付けさせる規律・規範計画及び特別指導の指導計画を基に、生活指導を行う。
- (3) 校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。
- (4) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、事故時に身を守るためにヘルメットの着用を生活指導部、生徒会、部長会等が組織的に働きかけ、着用率を向上させる。
- (5) 学校評価アンケート、体罰アンケート、いじめアンケートを効果的に活用して、きめ細かい生徒理解に努め教育相談機能を充実させる。
- (6) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。
- (7) スクールカウンセラーと連携して体罰根絶、自尊感情の醸成、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。
- (8) 公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。
- (9) 部活動及び体育の授業を軸に、生徒の基礎体力向上を図る。
- (10) 個人情報保護、人権保護の立場から生徒の指導を行うことを教職員に周知する。

4 特別活動・部活動

<目 標>

学校行事、部活動、海外交流等の特別活動を活性化させるとともに、「海外学校間交流推進校」として国際理解教育を推進しグローバルな人材を育成する。

<方 策>

- (1) 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事への取り組みを通して各種のリーダーを育成し、自主

的、主体的な活動を推進する。

- (2) 生徒会活動は、学校見学会、説明会、生徒会予算決定・執行等大変活発に活動しており、今後は生徒の自主性を高める生徒会の運営と、ボランティアや募金活動、制服改善の話し合いを活発に実施できるように教員が指導していく。
- (3) 部活動指導員を活用して部活動の充実を図るとともに、自分たちで目標を設定し、自主性を高める部活動の運営を推進し、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動運営を行い、コロナ感染症等により下降している部活動加入率を向上させる。
- (4) 部活動顧問と保護者間の連携を図り、相互の情報交流を促進するため、定期的に各部活動保護者会を実施する。
- (5) メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止、交通安全教室等の指導を通して、心身共に健全な生徒を育成する。
- (6) 文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、運動部、文化部共に部活動をさらに活性化させ、生徒の自主性・主体性、リーダーシップを育成する。
- (7) オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの構築の取組によって「海外学校間交流推進校」として豊かな国際感覚を養い、グローバルな人材を育成する。
- (8) ニュージーランド及び台湾等の姉妹校交流等、大使館訪問・大使による講演会、海外修学旅行、海外語学研修旅行、次世代リーダー育成道場への生徒派遣、留学生の受け入れ、東京体験スクール等をとおして、豊かな国際感覚を備えたグローバルな人材を育成するため、国際理解教育を一層充実させる。

5 募集・広報活動

<目 標>

都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、学校の特色を積極的に情報発信する。

<方 策>

- (1) ホームページの更新を随時行い、日常的教育活動をタイムリーに情報発信する。
- (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の良さや特色をPRする。
- (3) 学校案内の内容を改編し、来年度の生徒募集に向けて備える。
- (4) 学校内外における学校説明会、学校見学会、授業公開及び塾対象説明会を計画的かつ組織的に実施し、生徒の生き生きとして、礼儀正しく活動する姿を見せることができるように生徒主体の説明会や学校行事を実施し、参加者の増加を目指す。
- (5) 広報活動をより充実させて、在校生や中学生に向けて情報発信を積極的に行うため、HPリニューアルと充実、学校案内の刷新、HPのタイムリーな新情報の公開、Twitterの活用、YouTubeへの学校紹介動画や授業動画を配信、「まなびゅー」活用、都教委による学校紹介動画の作成と配信などを実施する。

6 学校経営・組織体制

<目 標>

教育施策や、都教育委員会からの各種指定校の取組を活用して、教職員の経営参画意識と協働意識を醸成する。さらに、グローバル人材の育成を目指し、国際理解教育と海外学校間連携事業の推進を学校全体で、組織的に取り組んでいく。

<方 策>

- (1) 国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導や、長時間勤務を減らして教職員の勤務の軽減を図る。学校閉庁日は、長期休業期間中に適宜配置する。
- (2) 業務の効率化を進め、教職員の一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図り、男性の育児休暇取得を一層推進する。

- (3) 台湾への修学旅行、ニュージーランドへの語学研修旅行、海外姉妹校交流の充実、外国語（英語）科教員等派遣研修への派遣等をととし、教職員の国際感覚を培う。
- (4) 経営企画室の業務進行管理と合理化を進め、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (5) 教育目標及び学校経営計画実現のために、5つの分掌の他、4つのプロジェクトチーム（PT）（学力向上＜教科主任会議が兼務＞、探究学習、グローバル人材育成、制服検討）を活用して学校の課題解決を図る。
- (6) 企画調整会議、職員会議等、会議時間 50 分以内を目標にし、業務を効率化する。
- (7) 計画的な O J T、校内研修（授業、探究、英語教育）を実施し、教員の人材育成能力及び専門性の向上を図る。
- (8) ニュージーランドへの語学研修旅行は「海外学校間交流推進校」として、今後の都立高校間の連携・協同の教育活動の在り方について検討し、都教委の海外生徒派遣に応募し、生徒を海外に派遣し、日本の伝統・文化等を海外に発信するために、交流を行う。
- (9) TGG（東京グローバルゲートウェイ）を計画的に活用するとともに、台湾修学旅行、イングリッシュキャンプ、ニュージーランド語学研修、次世代リーダー育成道場による海外留学、留学生の受け入れ。トルコ共和国大使館をはじめ大使館との交流等を通じてグローバル人材の育成を進める。英語科を中心とした英語検定試験の指導、オンラインを活用した英会話、スタディサプリ・イングリッシュを活用したオンライン英語学習などを実施し、英語学習の動機付けを強化する。
- (10) グローバル人材育成のための国際理解教育に関する充実した企画を推進するため、海外大学進学説明会、海外大学や国内の国際理解に造詣の深い講師を招いて国際理解の講演会、オンラインによる海外交流活動の推進、HPに定期的に活動を掲載、海外リーダーシップ研修実施、エンパワーメントプログラム実施等を企画していく。

Ⅳ 数値目標

令和5年度の数値目標項目	令和元年度から令和5年度の数値動向	数値目標
1 卒業生の進路決定率	85→79→84→84⇒89.5	90%
2 センター試験5教科型受験者数	6→10→8→16⇒7	10名
3 国公立合格者	4→3→2→0⇒4	5名
4 早慶、GMARCH合格者数	20→21→47→20⇒19	50名
5 長期休業中の講座数	109→95→72→48⇒31	100講座
6 教科ごとの教科研修会	3→5→3→5⇒7	5回
7 生徒の授業満足度	57.0→75.5→81.1→79.6⇒78.0	85%
8 生徒の自宅学習時間	1→1→1→1.5→1.9⇒1.8	2時間
9 生徒・保護者の学校満足度	83.0→84.5→72→81.6⇒78.1	90%
10 部活動加入率	96→90→90→85.5⇒82.1	90%
11 学校説明会等参加者数	3034→2985→1597→1891⇒3921	3000名
12 中学校への訪問数	85→79→未実施→140⇒1	150件
13 ホームページ1日アクセス数	1000→1100→1100→717⇒2207	1000件
14 地域との交流	5→5→未実施→7⇒8	5回
15 応募倍率(推薦)	2.86→3.18→2.52→2.7→2.14⇒3.63	3.0倍
16 応募倍率(一般)	1.39→1.17→1.16→1.5⇒1.7	1.5倍
17 1クラス1日の遅刻者数	1.8→0.85→0.08⇒1.8	1名
18 スマホ利用時間(勉強での利用除く)	令和2年度から 2→2⇒2	2時間以下
19 実用英語検定2級合格者数	(令和5年度より)令和4年度 10名→28名	80名
20 GTEC スコア 930 点以上	(令和5年度より)令和4年度 12名→20名	30名
21 共通テスト受験者数	177名→133名	200名
(うち5教科受験者数)	5教科受検 16名→7名	30名
22 授業公開週間来場者数	(令和5年度より)231名	延べ700名
23 模試分析会開催数・参加教員数	(令和5年度より)9回110名	10回200名